J. Fac. Appl. Biol. Sci.,
Hiroshima Univ. (1999), **38**：25～37

# 中国における牛肉生産と流通構造の現状
## —内蒙古地域の事例を中心に—

李　文秀*・三国　英實

広島大学生物生産学部，東広島市 739-8528
1999年5月11日　受付

**要　旨**　中国では，1998年の牛の飼養頭数と牛肉生産量は1.47億頭，580万トンであり，前年度に対してそれぞれ5.0％と7.4％の増加を見せている。このように中国の肉牛産地において牛肉の増産意欲が強まっており，その商品化が展開しつつある。

中国は広大な地域において牛肉が生産され，経営形態もさまざまである。中でも，内蒙古自治区は，肉牛・牛肉産地として農作地帯への役畜と素牛の供給地となっており，また，都市への牛肉供給基地として重要な地位を占めている。

放牧地域の内蒙古の錫盟[1]においても，改革開放以後の経済体制の変化と市場経済導入のもとで肉牛生産は人民公社主体の経営から生産専業戸と集団経営へと著しく変貌した。畜産インテグレーションによる企業経営も出現しつつある。牛肉の流通機構は単一の国営企業経営形態から国営企業，私営屠場，家畜市場など多様な形態への変化が見られる。しかし，個人経営の屠畜商が増加したことから，品質の低下した牛肉も市場に流入している。国営の屠畜場は大きな負債を抱え，食肉産業発展の足かせとなるなどの問題が起こっている。
キーワード：中国内蒙古，牛肉生産，経営形態，産地流通機構。

## はじめに

現在，急速な経済発展を遂げる中国で，牛肉の消費は着実に増加しており，食肉消費構成をみれば，1990年の牛肉消費量が食肉総消費量に占める割合は4.4％であったのが，1998年になると9.2％へと増加している。同年度の牛肉輸出量は5万トンに達している。

食肉流通は，市場経済が導入されている。市場制度に関する法律の制定や改定などにより流通構造の調整が進んでいることから，卸売市場の設置を軸とする流通構造の再編の摸索という課題が注目されるようになっている。

内蒙古自治区（以下内蒙古と称する）は，新たな肉牛・牛肉産地の形成過程の中で，放牧地域においても，牛肉の生産と経営形態，及び牛肉流通システムの変化が見られる。

本論文では改革開放後の中国の牛肉需給と流通構造の変化を概観し，内蒙古の調査にもとづき，内蒙古での錫盟地区を対象として牛肉流通構造の現状と問題を明らかにする。また牛肉産地形成と流通システムの今後の方向を分析する。

## Ⅰ　中国肉牛・牛肉の生産と流通構造の現状

### 1 肉牛・牛肉の生産動向

今，中国では，牛は乳牛，黄牛，水牛，ヤクに大別でき，牛の品種が61種あるが，役用牛，乳牛，乳肉兼用牛，肉用牛の4つに分類し，それぞれを特徴づけている。

---

* 広島大学大学院生物圏科学研究科

1 内蒙古の行政機構は自治区→盟→旗（県）→蘇木（郷）と称する。「錫盟」というは錫林郭勒盟の略である。

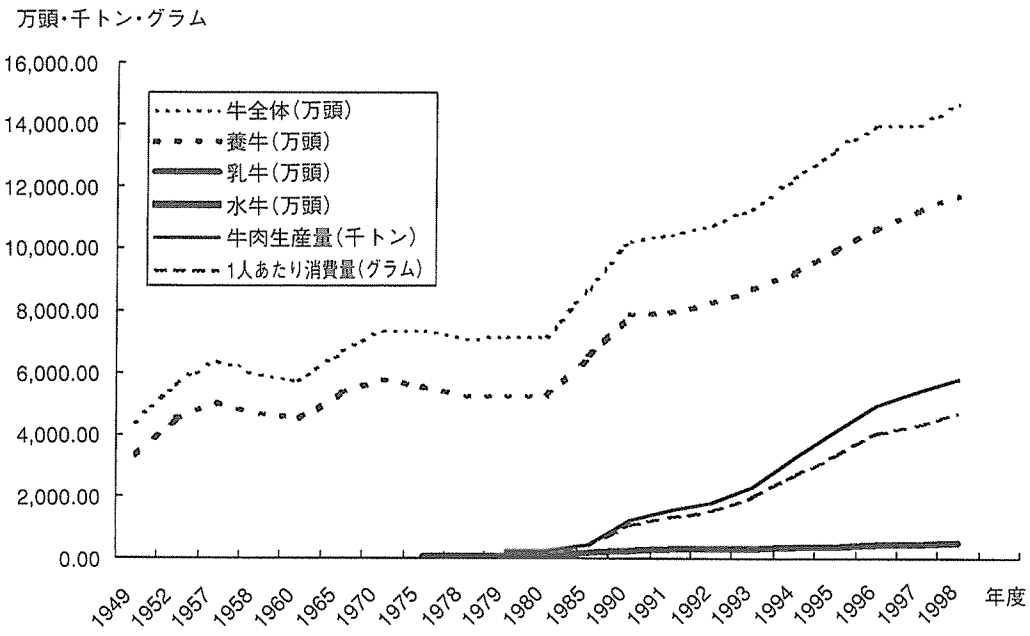


図１　中国における牛の飼養頭数・牛肉生産量及び１人あたり消費量

資料：中国統計年鑑

牛は，以前は生産手段とだけ見なされていたため，屠殺が厳しく制限されていたが，1979年以後こられの制限が撤廃されたため，牛の飼養は増大してきている。近年になって図１のように肉用，乳用牛の生産を目的として生産基地の建設が進展している。特に，改革開放政策によって，農村生産責任制が実施され，79年～89年の間には，牛の飼養頭数は順調に伸び，１億頭を越え，1990年から，更に増加しており，1998年には，147,052万頭に達した。

中国の食肉生産は，改革・開放政策以後の所得の向上に伴い，年々高まる需要を反映して順調に伸びてきた。94年から95年にかけては2年連続で前年比17％の伸びを記録して，近年では最も食肉生産に拍車がかかった状況となっている。1991年～1998年の生産実績を見ると，主要な食肉の総生産量が1997年には6,250万トンに達し，前年より増加率が低下したものの，引き続き成長している。

食肉の構成比を見ると，（表１を参照）牛肉の割合が高くなっている。すなわち，肉類の中に占める豚肉の比重が1991年の78％から1998年の70％に下がり，1991年より8％低下した。逆に牛肉は1991年の4.9％から1998年の9.3％へと，1991年より5.5％増加した。政府は，従来未利用であった作物茎などの残滓を飼料として有効利用する政策を採っており，今後は，これらを用いた飼養に適した牛およびう羊の飼養頭数が増えていくことが確実である。豚肉シェアは徐々に縮小し，牛肉シェアの増大は徐々にではあるが今後も続くものと思われる。

## 2 牛肉消費の特徴

牛肉の１人当り消費量は世界の中で占める位置が図１と表２のように中国の場合は低い水準にある。その理由については，いろいろ考えられるが直接の原因としては，中国は国民所得の面では低迷をつづけており，国民の１人当たりの食肉消費も先進国と比べていまだ大きな格差があるためである。さらに，先進国の牛肉の生産コストは比較的高いので，現段階では，国民は概して外国から輸入した牛肉を購入する余裕はない。そこで，輸入された高品質の牛肉は主として高級なホテルやレストランで使用されている。

表1　中国の食肉生産量の推移

（単位：万トン，%）

| 区分　　年 | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 食肉　合計 | 3,144.4 | 3,430.7 | 3,841.5 | 4,499.3 | 5,260.1 | 5,915.1 | 6,200.0 | 6,250.0 |
| 前年比 | 110.1 | 109.1 | 112.0 | 107.1 | 116.9 | 112.5 | 104.8 | 108.1 |
| 豚肉 | 2,452.3 | 2,635.3 | 2,854.4 | 3,204.8 | 3,648.4 | 4,037.7 | 4,250.0 | 4,400.0 |
| 前年比 | 107.5 | 107.5 | 108.3 | 112.3 | 113.8 | 110.7 | 105.3 | 103.5 |
| 食肉に占める | 78.0 | 77.4 | 74.3 | 71.2 | 69.4 | 68.3 | 68.5 | 70.4 |
| 牛肉 | 153.5 | 180.3 | 233.6 | 327.0 | 415.4 | 494.9 | 540.0 | 580.0 |
| 前年比 | 122.2 | 117.5 | 129.6 | 140.0 | 127.0 | 119.1 | 109.0 | 107.0 |
| 食肉に占める | 4.9 | 5.3 | 6.1 | 7.3 | 7.9 | 8.4 | 8.7 | 9.2 |
| 家禽肉 | 395.0 | 454.2 | 573.6 | 755.2 | 934.1 | 1,074.6 | 1,150.0 | 1,170.0 |
| 前年比 | 122.3 | 115.0 | 126.3 | 131.7 | 123.8 | 115.0 | 107.0 | 117.3 |
| 食肉に占める | 12.6 | 13.3 | 14.9 | 16.8 | 17.8 | 18.2 | 18.5 | 18.7 |

資料：中国統計年鑑

表2　1998年世界の牛肉1人当たりの消費量

| 国　名 | 1人当たり消費量（Kg） | 国　　名 | 1人当たり消費量（Kg） |
|---|---|---|---|
| カ　ナ　ダ | 32.2 | イギリス | 15.8 |
| アメリカ | 44.4 | 中　　国 | 4.7 |
| ウルグアイ | 59.4 | 日　　本 | 11.8 |
| フランス | 25.9 | 韓　　国 | 9.1 |
| イタリア | 25.9 | オーストラリア | 37.3 |

資料：畜産振興事業「畜産情報」（国外篇）1999・2月号

### 3 現段階の肉牛・牛肉流通状況

1984年10月の12期3中全会の「経済体制改革に関する中共中央の決定」と，その後の1985年の1号文献である「農村経済をより一層活発にする十項目の政策」によって契約買付制を導入し，市場メカニズムを一層強める畜産物流通体制改革に着手した。

肉牛は農村にある郷の「買付けステーション」で買付け，屠畜・解体された後に，生肉や冷凍肉として流通しているのが一般的な形態である。1980年代前半から，大都市への肉牛供給は主に役牛肥育後の販売である。また，その頃から農家及び個人商人による屠畜・販売が農村及び地方都市への供給の一端を担うようになってきた。1985年以後の牛肉は原則的に自由な市場流通となっている。流通機構は市場経済化の進む中で漸次一般市場としての性格を強めると同時に，各種経済組織，個人経営など民営の流通分野への進出も活発化している。さらに生産者と消費者が直接取引きをする自由市場も拡大しつつある。

つまり，現在の生産者による牛肉の販売ルートは大きく4つの形態がある。①生産者は農家個人及び生産団体自身による自由市場での販売，②自由市場で個人販売を行う屠畜・販売業者（商人）への販売，③行政機関や公営のホテルや食堂などのような都市の大口需要者へ出荷販売，④都市の国営食品公司への販売などである。改革開放後の中国では経済成長、人口と所得の増加とともに畜産物の需要が高まり，牛肉の生産と流通システムも大幅に変わってきている。牛の飼養は，役畜用から肉畜用へ，生産量追求型から品質追求型へ，流通構造は国家統制型から市場経済へ転換し，これら3つの転換を経て牛肉産業は新たな発展段階を迎えようとしている。

### 4 現段階の流通構造

現在，中国には各種の「市場」があるが，近代的な小売り店舗であっても「自由市場」と称される。また，国営食品公司と合併して卸売市場をつくることがある。批発市場と言われている。以下で簡単に整理する。

(1). 国営商店は，改革開放以前には，小売り商店はこの形式であったが，国営といっても経営主体は地

方行政当局である。なお，商品調達は主に行政系統であったが，経済開放により，現在では多様化している。

(2). 自由市場は，改革開放以後，農民が自家産物を持ちよりで始まったものであるが，現在では，近代的な店を構えた私営専業者の大型店舗まで出現している。なお，店舗開設には当局の許可が必要である。

(3). スーパーは，国営，自由市場を問わず，西欧風の近代的豊富かつやや高級な品揃えをした店舗が，そう呼ばれている。「商城」と呼ばれることもある。(なお，デパートとの区別は必ずしも明確ではない)

(4). 批発市場は，文字どおりは卸売市場であるが，その多くは小売りもする総合的な市場である。開設者は地方当局で，運営形態は一般的には独立業者が開設者からコマ（小間）を借りる子店方式である。例えば，「大鐘寺副食品批発市場」は，卸売市場で，北京市の北部に位置する最大の副食品（主食穀類以外の食品の総称）市場である。(なお，子店としては，国営も私営も併存している)。なお，「青物・油脂等」と「肉類・魚類」のパビリオンは，それぞれ「別の棟」になっている。この市場での卸売取引は，小売販売（主に自由市場向けか）用の仕入れ，およびレストランやホテルの仕入れが主体で，受け渡し後はリヤカーや小型トラックにて積み出されている。

## II　内蒙古畜産業の概要と肉牛の産地形成

### 1 内蒙古畜産業の概要

中国は広大な地域において牛肉が生産され経営形態もさまざまである。したがって，内蒙古自治区（以下内蒙古と称する）の放牧地域の畜産を主な分析対象地域として，牛の飼養と牛肉の流通システムを考察することにする。

内蒙古は，中国の北部の細長くて広大な区域であり，中国の牧畜業の重要な基地の一つである。内蒙古の総面積は115.84万平方キロで，中国国土総面積の12.06％を占め，草原面積が88万平方キロで，全国五大牧場の首位を占めている。ここは天然牧草の種類が多く，牧草の利用割合も高い。草地依存型畜産である。これらの数多くの植生が各地の異なる自然状況と調和しながらいろいろな畜産生態系を形成している。内蒙古は肉牛・牛肉産地として，農作地帯への役畜と素牛の供給地となっており，また，都市への牛肉供給基地として重要な地位を占めている。肉牛・牛肉産地の新たな形成過程の中で，放牧地域の内蒙古においても，牛肉の生産と経営形態，及び牛肉流通システムの変化が見られる。また，牛の飼養技術の基礎があることから，将来の政策動向によっては乳用種も飼養拡大が期待される地域となる。

### 2 産地形成要因

内蒙古では乳用牛，肉用牛，羊，馬などの飼養に，それぞれ適用可能な自然環境となっている。主な牛種類は蒙古牛であり，（生息地によって分類されている黄牛の１種である）また蒙古牛の品種改良種「草原紅牛」，「三合牛」，「烏珠穆沁牛」などの牛は，優良種として全国に名を知られている。

内蒙古牛肉産業発展の要素としては，第１に草原の総面積が13.2億ヘクタールに達し，全国草原総面積の三分の一を占めて，牧草の種類も非常に多く，良質の牧草が約1000種類以上ある。そのうち，栄養価値が高く，家畜が好んで食するものが600種類以上にあり，平均草厚は約60～80センチメートルにもなる。平均１ヘクタール当り乾草生産量は750～1125キログラムであり，草としての餌は確かに豊富で採草利用と放牧利用が中心の飼養となっている。豊富な飼料で低コストの牛肉生産を可能にしている。第２に内蒙古内の牛肉消費にとどまらず，また，中国各省への移出と外国への輸出の場合には，高い品質の牛肉が求められている。内蒙古では全国より優良品種の肉牛がいるので，毎年大量の素牛が区内外の市場に広く販売されている。しかし，最近，大都市では牛肉に部位別価格制度が導入され，肉質の改善を目的として優良種牛導入の重要性がますます認識されている。内蒙古の錫盟でも外国の優良種牛の導入について政府補助金制度が設けられるなどの新しい政策が次々と講じられている。蒙古牛も経済能力を向上させるために，生産団体及び牧民の場合は１頭の外国優良牛が導入されれば，錫盟政府から700元（１万円）の補助金をもらえる。1995年から外国種のブラウンスイスの品種を導入して改良が行われている。錫盟多論県では1997年にオーストラリア

表3　内蒙古の肉牛生産の中国おける地位

単位：万頭・万トン

| 区分 | 全国 | | 内蒙古 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 飼養頭数 | 牛肉生産量 | 飼養頭数 | シェア | 順位 | 牛肉生産量 | シェア | 順位 |
| 1979 | 7134.6 | 23.0 | 391.1 | 5.5% | 7 | 3.0 | 13.3% | 1 |
| 1991 | 10459.2 | 153.5 | 376.5 | 3.5% | 12 | 9.6 | 2.5% | 4 |
| 1995 | 13206.0 | 415.4 | 389.3 | 2.9% | 15 | 9.4 | 2.3% | 10 |
| 1996 | 13981.3 | 494.9 | 408.3 | 2.9% | 14 | 11.9 | 2.4% | 9 |

資料：中国統計年鑑

から500頭のブラウンスイスの種オス牛が導入された。牛の改良と肉質を高めるのは内蒙古の肉牛生産の成長を支える要素となっている。第3に内蒙古牛肉生産の全国における位置づけを見るとそのシェアが下りつつあるとはいえ，内蒙古は全国で肉牛・牛肉生産の中で重要産地であることは明らかである。西部放牧地域の内蒙古は，表3のように牛の飼養頭数は1979年に全国の第7位で，全国の5.5%を占めていたが，1995年になると第15位2.9%になった。牛肉の生産量も1979年は第1位で，全国の13.3%を占めたが，1995年には第10位の2.3%になった。これは前述のように，中国の肉牛・牛肉生産の急速発展の中で，内蒙古の生産がまだまだ遅れているという現実を示している。79年～95年まで内蒙古の牛肉増加率は毎年平均4%であった。これは，全国の増加率より低い値となっており，95年の1位の山東省より1.8ポイントマイナスになっている。96年から全国における順位・シェアはやや回復傾向が見られる。

### 3 牛肉・肉牛生産の展開

内蒙古における牛の飼養頭数の最も大きな特徴としては，図2に示したように，飼養頭数の増加が挙げられる。1947年に内蒙古自治区が成立してから1996年までの50年間で，牛の飼養頭数は実に2.7倍に増え，477.2万頭になった。その中で，1965年，牛の飼養頭数はピークの493.2万頭になったが，自然災害と中国文化大革命の深刻な影響で徐々に低下し，1978年には358.5万頭に減少した。

改革開放後，牛の飼養頭数は増えつつある。特に市場経済へ移行し始めた1985年，424.0万頭に増えた。したがって，牛肉需要量の増加につれて牛の飼養頭数は再び増加し，増加率も高まり，1996年では1984年より13年間で15.3%の伸びを示している。最近では牛の飼養頭数の増加率が低下しつつある。1996年は前年よりただ7%増加しただけである。その原因として牧民は飼養頭数を単純に追求した結果，草原の砂漠化を招くに至った。内蒙古の牛飼養は天然草地依存の放牧型であるので，過放牧防止のために，政府は家畜の飼養頭数を厳しく制限したのである。内蒙古は牛肉と素牛の供給地として，牛の生産増加を図るためには，どのように対応すればよいかが課題となっている。内蒙古の近年の牛飼養と出荷状況を示したのが表4である。

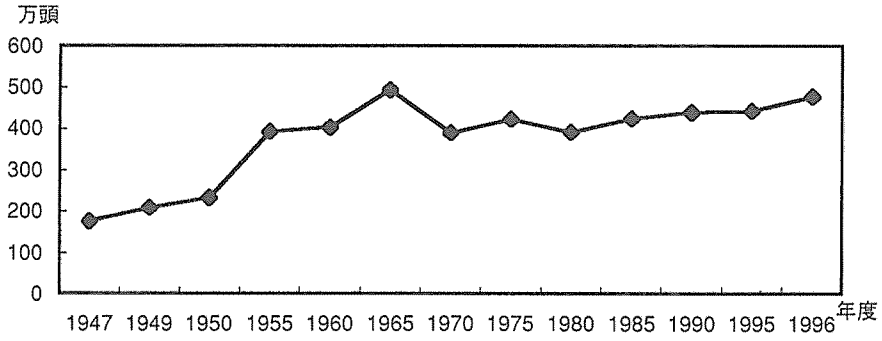


図2　1947～1996年まで牛の飼養頭数の推移

資料：内蒙古農業統計年鑑各年版

表4　内蒙古の牛の飼養と出荷状況

単位：万頭

| 年度 | 飼育総頭数 | 肉用牛飼養頭数 | 繁殖用雌牛 | 子牛頭数 | 優良子牛 | 区外移出頭数（肉牛と子牛） | 肉牛出荷頭数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1980 | 353.7 | 244.1 | 109.6 | 66.5 | − | 39.3 | 50.6 |
| 1981 | 354.7 | 239.3 | 115.4 | 58.1 | − | 36.3 | 36.8 |
| 1982 | 381.2 | 255.5 | 125.7 | 70.2 | − | 38.0 | 32.6 |
| 1983 | 374.5 | 249.4 | 125.1 | 67.7 | − | 53.1 | 40.9 |
| 1984 | 373.8 | 245.5 | 128.3 | 61.7 | − | 54.2 | 43.8 |
| 1985 | 396.5 | 256.9 | 139.6 | 73.7 | − | 46.8 | 39.7 |
| 1986 | 405.7 | 259.8 | 145.9 | 74.3 | − | 48.2 | 42.6 |
| 1987 | 393.1 | 247.0 | 146.1 | 71.8 | − | 66.9 | 59.9 |
| 1988 | 398.5 | 248.0 | 150.5 | 79.6 | 9.70 | 62.9 | 57.6 |
| 1989 | 393.4 | 244.6 | 148.8 | 87.9 | 11.25 | 80.6 | 72.9 |
| 1990 | 385.3 | 241.6 | 143.7 | 81.3 | 8.20 | 70.3 | 66.2 |
| 1991 | 376.5 | 229.6 | 146.9 | 82.3 | 9.60 | 79.2 | 73.2 |
| 1992 | 370.7 | 224.5 | 146.2 | 86.5 | 10.40 | 79.9 | 73.7 |
| 1993 | 365.4 | 218.8 | 146.6 | 86.4 | 11.90 | 83.4 | 77.1 |
| 1994 | 365.4 | 213.7 | 151.7 | 86.5 | 13.70 | 86.4 | 77.9 |
| 1995 | 389.3 | 225.1 | 164.2 | 96.5 | 13.90 | 79.0 | 69.9 |
| 1996 | 408.3 | 233.9 | 174.4 | 116.1 | 14.78 | 106.0 | 88.0 |

資料：内蒙古50年間統計年鑑

改革開放後の1980年から1996年までの17年間の間に，繁殖用雌牛と子牛の飼養頭数は増加しつつあり，特に，子牛の生産頭数が42.7％増加した。内蒙古は子牛産地として周辺地域へ子牛を提供することができる。したがって，区外に子牛移出頭数は年々増えていた。1980年の移出率は11.0％で，1996年には26％である。飼養方法の改善と出荷頭率の増大で，1980年の出荷率は20.7％で，1996年には37.6％である。1頭当たりの肉の生産量は1980年の117.9Kgで，1996年には128.1Kgに達した。1996年の肉牛の飼養頭数は1980年より減少したのに牛肉の生産量は逆に増大している。また1988年に外国から牛の優良品種の導入が始まった。当年度，優良子牛の占有率は12.2％であった。1996年では12.7％を占め，0.5％増加した。このような牛の品種改良は全国の中でもかなり前から進んでいる。また草原紅牛の新品種の育成などの技術の基礎があることから，将来の政策動向によっては乳用種の飼養拡大期待される地域である。

内蒙古の牛肉生産量は図3に示すように1979年から1996年までの間に増加しつつある。18年間で74.4％増えた。1979年の牛肉生産量は3万トンで，全国の13％を占めていたが，1996年には，11.7万トンに達し

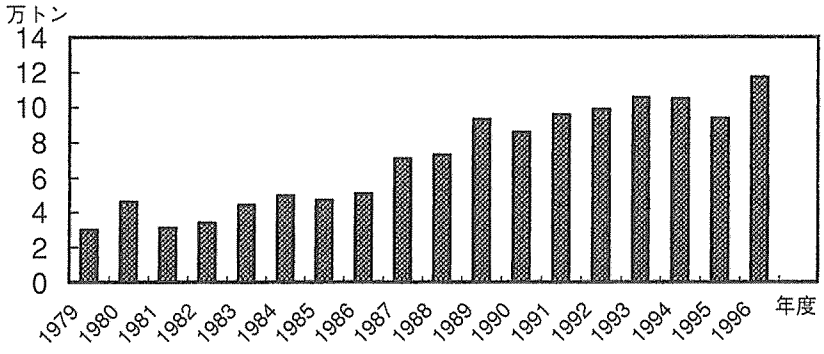


図3　1979～1996年の牛肉生産量の推移

資料：内蒙古各年度統計年鑑各版

たにもかかわらず，全国の牛肉生産量の2.4％に低下した。この間に全国の生産量が増大したためである。

## Ⅲ　産地の新たな肉牛の経営展開

### 1 肉牛生産方式と経営形態

以上，内蒙古全域の肉牛･牛肉の生産状況を概観した。しかし，内蒙古では，自然地理によってさまざまの農業地域を形成している。例えば，「南は穀物，北は牧畜，東が森林で，西は鉄鉱，そしていたる処に石炭あり」と言われている。ここでは，内蒙古北部の牧畜地域の錫盟と東北部の農牧交錯地域の事例を対象として，肉牛の経営展開を明らかにする。

今の内蒙古の畜産経営形態は主に次の五つの形態あげられる。家族経営，国営経営，共同経営，畜産インテグレーションと外国資本との合弁経営の五つである。中でも家族経営が圧倒的なシェアを占め，家畜飼養頭数のおいても畜産物生産量においても九割以上を占めている。古くから内蒙古の肉牛の経営は草や水に従い，牛と人が共に移動するという家族経営としての「挙家移動型」粗放的経営がほとんどであった。歴史的にかかる慣行的草地利用方式は遊牧民族の生活習慣もあって容易に変えることはできないことがある。しかし最近では牛肉産業の発展過程を通じて，伝統的な役牛を主体とする自然発生的生産基盤から，商業的な生産様式が出現しつつある。分散的小規模家族経営から大規模家族経営，集団経営へと進行しつつある。

近年，農畜産地域における農村工業やサービス業など発展により，加工原料としての畜産物需要が拡大して，都市住民の生活レベルが上がったために，牛肉と羊肉消費量は一般消費量としての需要も増大して，畜産経営によって有利な市場展開となっている。そうして中で先進国からの資本・技術移転や流通システムも導入している。先進国の市場，価格情報サービス，畜産品の規格化，標準化，研究開発，技術サービス，市場開発，輸送，貯蔵などの先進技術を利用し，畜産物の生産・流通・加工・販売の各過程での労賃を，施設や機械に置き換えながら，最大限利潤を追求する畜産インテグレーションも見られるようになった。

### 2 諸経営形態の展開

（1），肉牛生産の専業戸

ここで1戸の牧民[2]を事例に，その経営展開を見る事にする。錫盟錫林浩特市「躍進蘇木」[3]のウルジ牧民の調査により，その経営の展開過程を示すと表5である。ウリジ牧民は改革開放前，毎年人民公社の牛の遊牧に従事してきた。1979年から牛38頭，羊29頭を請負うことによって家族経営を開始した。1990年までウリジ牧民は家族4人で自然草地依存型の単一の構造で放牧した。1991年から牛の飼養方式は舎飼と季節的放牧の結合型とした。肉牛を出荷する前は濃厚飼料で2ヶ月～3ヶ月間で肥育される。飼養規模が拡大したので，現在は2人のアルバイトを雇用している。

このように錫盟の牛肉産地における肉牛・牛肉の生産規模と経営方式は，経済体制の変革と市場経済導入の中で激しく変貌しつつある。

表5　ウリジ牧民の牛の飼養と出荷状況

単位：頭

| 年度 | 飼養頭数 | 出荷数 | 草原紅牛 | 外国種人工授精 | 畜産自由市場 | 出荷先 商人ルート | 盟食品公司 | 市食品公司 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1995 | 197 | 63 | 0 | 0 | 4 | 38 | 16 | 3 | 2 |
| 1996 | 213 | 92 | 5 | 2 | 10 | 36 | 24 | 8 | 14 |
| 1997 | 255 | 116 | 6 | 3 | 19 | 54 | 12 | 21 | 10 |

出所：1998年5月現地調査により作成

2 中国では，戸籍によって都市住民と農民・牧民を区分する。牧民は牧区に住み，草食性動物の飼養を主業とする。

3 「蘇木」は中国の郷で，ここは内蒙古の特有の称である。

（2），集団経営

錫盟貝力克牧場は1987年以前は国営牧場として経営されていた。改革開放後，家族請負制により，家畜が家族人口によって分配され，家族経営になった。しかし，1995年に零細経営の農家21戸が合併して，86頭の牛が集められ，「肉牛開発公司」を設立した。1998年５月の調査の時には319頭の牛が飼養され，その中，改良種は21頭である。また，この牧場は集団経営でデータを収集しやすいので，1997年に牧場は「盟家畜改良ステーション」の実験牧場になった。いま牧場は放牧経営と肥育経営および牛改良実験を行なっている。一貫経営として成長しているというのが実状である。

（3），肉牛生産のインテグレーション

「特木畜牧業開発公司」は，牛肉産業の近代化を目指す日本の投資者との合併会社として1997年４月に内蒙古の錫盟で設立された。同時に当地の「食肉食品公司」と合併し，産地食肉加工センターになった。極めて新しい総合牛肉企業である。牛肉の生産・加工・販売の一貫システムを形成している。今日的な市場経済メリット追求型のインテグレーターということが出来よう。会社が設立した時，一回で６千万円が投資された。今，牧場は64平方キロ，牛舎，24000平方メトールである。肥育頭数は約200頭で，放牧頭数は300頭である。職員は30人（管理，肥育，放牧，販売）である。濃厚飼料で半年間肥育してから出荷する。現在，１カ月間で平均40～50頭が出荷されている。1998年5月の調査の時点で，１年間の間に，販売地の大連で20軒の大口需要者と契約している。１カ月２回で大連へ８トンの牛肉が産地から直送される。初めの１年間で販売高は30万元（500万円）であた。いま大連で「特木牛肉」（特木肉牛開発公司で生産される牛肉は特木牛肉と称する）の消費量はますます増える見込みであるので，子牛の大量的な購入及び育成牛の大量的な出荷の計画がある。一年間の実積を踏まえて，利益の増加が見込まれている。

内蒙古における牛肉産業はまだまだ遅れている。主な原因として資本金づくりがこの地方では厳しい条件にある。今の内蒙古の経済状況は表面的には経済成長の進展が伝えられるが，反面，深刻化するインフレの進行や沿海との格差の拡大など，跛行性の目立つ現実にある。例えば錫盟と興安盟牛肉発展は潜在力がある。しかしながら，資本金の不足は牛肉産業の発展を制限している。「特木畜牧業開発公司」のようにこ外国の資金の導入が牛肉産業を発展させていることがまだ少ない。以上のことから，内蒙古の畜産経営発展の基礎条件として資本づくりが重要な課題である。

## Ⅳ　内蒙古牛肉流通システムの変化と現状

### 1 内蒙古肉牛の商品化

表６は内蒙古での牛肉生産量と消費量を示したものである。食肉生産量の増加とともに牛肉の生産量も増加しつつある。特に区外移出量が激しく変化しており，1988年1.9万トンで牛肉生産量の26％を占め，1996年7.1万トンで60.7％に達している。１人当り牛肉の消費量も増えつつあり，且つ，全国より多い。しかし，牛肉の食肉に占める割合は1980年の18.5％から1996年の11.7％に減少している。これは，中国南部の人たちの食生活習慣が内蒙古に浸透し，また牛肉の値段は豚肉より高いので，内蒙古の都市の人たちも豚肉・鶏肉を食べる量が増加したためである。豚の飼養頭数と豚肉生産量は急速に増えて，1979年554.6万頭で，1995年765.7万頭である。豚肉の生産量は1979年11.5万トンで，1995年47.7トンである。それぞれの増加率は2.2％，18.5％である。特に，牛・羊肉が主食である遊牧民族の食生活も変わってきており，穀物と野菜（遊牧民族は食生活の習慣で豚肉・鶏肉を食べないが）を食べる量が増えている。

市場経済導入後の牛肉の指導性生産と自由な流通制度の成立経過については，出荷，卸売り，小売り３つの段階でそれぞれの要点を検討する。「生産請負制」への変革により，内蒙古の肉牛出荷も基本的に全国と同じように生産者の自由な生産と出荷・販売がほぼ実現した。農民・牧民は生産と出荷・販売における自主的決定権を獲得することになった。指令性生産体制の桎梏から開放され，生産経営活動は市場メカニズムのもとで行われるようになった。

### 2 肉牛産地の流通変化

牛肉の流通システムについては，錫盟の市場を事例に見ることにする。1997年には，全盟の食肉流通企業は76ケ所がある。この中に国営企業は36，私営企業は40である。1998年５月の調査の時点では，全盟の

表6　1980～1996年の牛肉需給動向推移

| 年度 | 食肉生産量（万トン） | 食肉出荷量（万トン） | 牛肉生産量（万トン） | 牛肉出荷量（万トン） | 牛肉区外移出量（万トン） | 1人当たり消費量（Kg） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1980 | 24.9 | | 4.6 | | | 2.44 |
| 1981 | 24.9 | | 3.1 | | | |
| 1982 | 28.6 | | 3.4 | | | |
| 1983 | 31.8 | | 4.4 | | | |
| 1984 | 33.7 | | 5.0 | | | |
| 1985 | 35.9 | | 4.7 | | | 2.34 |
| 1986 | 38.7 | 17.0 | 5.1 | 3.6 | | |
| 1987 | 42.0 | 20.4 | 7.1 | 5.5 | | |
| 1988 | 42.5 | 20.6 | 7.3 | 5.4 | 1.9 | |
| 1989 | 52.9 | 28.0 | 9.3 | 7.3 | 2.4 | |
| 1990 | 53.6 | 28.0 | 8.6 | 6.7 | | 3.99 |
| 1991 | 60.7 | 33.0 | 9.6 | 7.6 | 2.7 | |
| 1992 | 65.5 | 37.3 | 9.9 | 7.9 | | |
| 1993 | 71.1 | 42.6 | 10.6 | 8.9 | 5.0 | |
| 1994 | 75.2 | 45.0 | 10.5 | 8.7 | 6.4 | 4.70 |
| 1995 | 81.9 | 51.5 | 9.4 | 7.8 | | 4.10 |
| 1996 | 100.4 | 64.4 | 11.7 | 9.2 | 7.1 | 5.10 |

資料：内蒙古50年間統計年鑑

食肉貯存量は冷蔵，20,705トン，冷凍，889トンである。肉牛の出荷は大きく私営と国営のと畜・加工センターと商人，家畜市場によって担われている。このなかで家畜市場を経由する出荷は極めて限られており，主たる流通経路は私営企業及び家畜商人によるものである。流通に占める国営流通部分のシェアは激減した。さらに肉牛・牛肉の販売総数量に占める国営「食品公司」の比率についてみると低い状態である。国営の食品公司のうち2ケの経営が黒字で，他の企業は全て赤字であった。したがって，肉牛・牛肉の主な流通経路は図4のように肉牛生産の牧民→産地収集商人→と畜場兼加工→小売店→消費者という流れとなる。

市場経済への転換によって自由な市場流通が展開するようなり，肉牛・牛肉の流通分野には国有・私営・商人といった各種経済主体が参入し競争原理のもとで，流通の活性化が促進された。

改革開放前，生産者は「盟食品公司」以外に区外への出荷することが認められず，改革開放後～1990年までの遠地出荷の場合は，肉牛・牛肉生産の牧民が分散していることに加えて，交通と運輸手段の不備や市場情報の不足などのため個人出荷は著しく困難であった。そのため，遠地生産地においては県単位で出荷組織を設立している場合が多い。これらの出荷組織は牧民から肉牛・牛肉を買付けて市場へ出荷し，買付け価格と市場での販売価格の差額が出荷組織の運営資金となるしくみである。また販売価格は公定されていたのに対し，現在は流通の民営市場への開放により，生産者は出荷市場を自由に選ぶことができるようになり，また販売価格も市場の需給状況に応じて相対で決定されるようになった。また小売り段階においても，生産者は自由化された小売市場で自由に販売する権利が認められた。且つ，出荷販売方式は地域により，あるいは生産団体により，それぞれの条件の最も適した方式が模索されているため，総体として極めて複雑，多様な様相を呈しているというのが実状である。これらと別に，牧民が個人で付近の畜産自由市場に直接出荷するケースも見られる。

### 3 産地流通の諸形態

（1），国営食品公司

牛肉流通システムの現状を国営企業の錫盟「盟食品公司」を対象として見ることにする。錫盟「食品公司」の機能は改革開放前の機能と同じである。この企業は1960年に設置し，全盟の一番大きい家畜の屠畜・加工・卸売りの企業である。食肉の蓄存量は冷蔵，1,500トン，全盟の7.2％を占めて，冷凍，70トン，全盟の

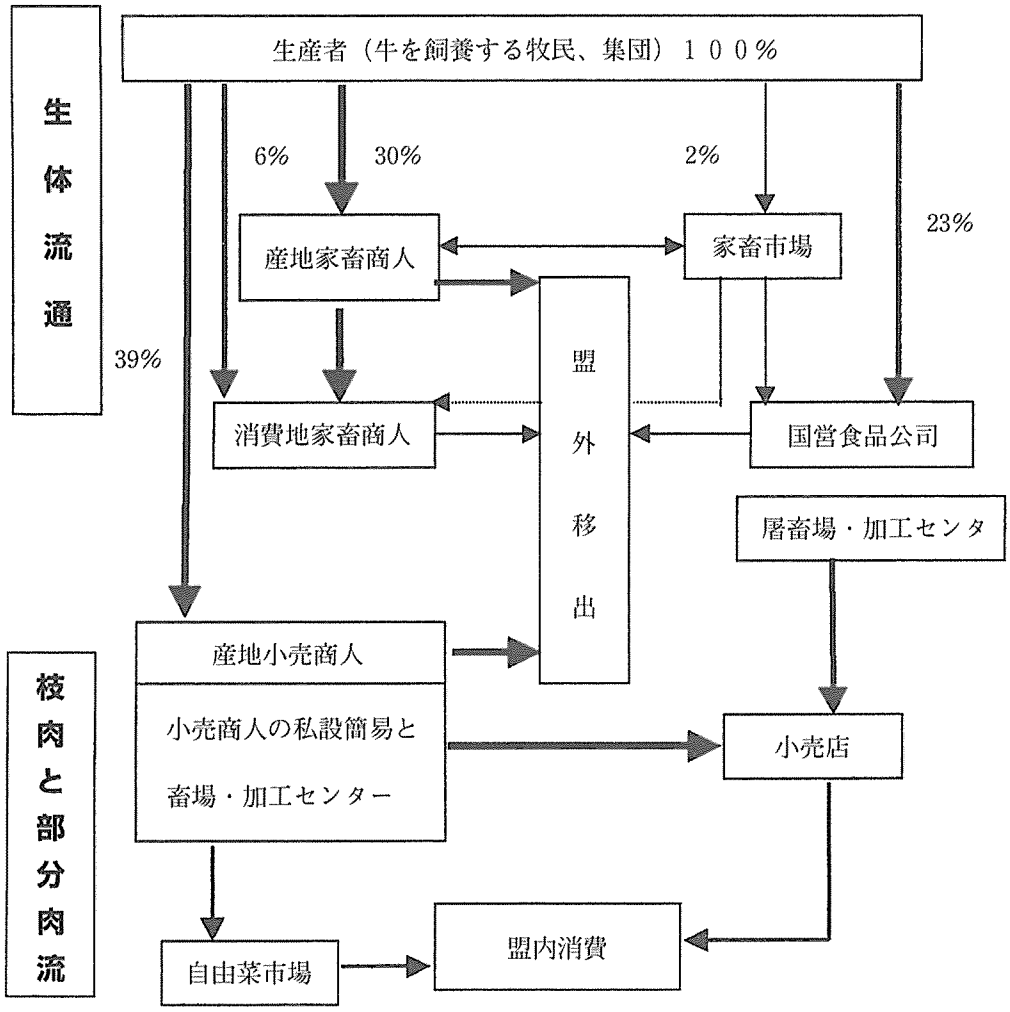


図４　錫盟の肉牛・牛肉流通システム
資料：錫盟牧畜処・商業総公司にて聞き取り調査により作成，占有率は1997年の調査数字である。

7.9％を占めている。現在，職員は315人（在職と退年した人）がいる。1960～1990年の間に盟商業局の指令性計画により生産・販売し，また，行政の機能もあり，盟外移出食肉（牛肉・羊肉）のための集・出荷も担っている。したがって，これらの「盟食品公司」は，物的集配機能を行う意味で卸売市場と称してはいるものの，実際には市場経済のもとで一般に存在している卸売市場とは大きく異なり，その性格は単に荷物を仕分ける「分配所」として特徴づけられる。1991年から地域牛肉生産・流通の具体的な条件を踏まえながら独自な流通システムを追求するようになった。しかし，国営の性質はまだ変わってない。

「盟食品公司」の経営は３年間に連続赤字を出している。最近の取扱状況は表７に示している。1996年と1997年の２年間の集出荷数をみると，牛肉の購入数がかなり減っている。

国営企業として赤字が出るのはいろいろな原因がある。すなわち「盟食品公司」のと畜・加工・保存の整備の中で，1974年と1987年に拡大した時，新機械を購入したが，1960年に設置した時の機械もある。改革開放前，国営企業は全ての費用は地方政府が支出していたので，職員の数が 無計画で必要以上に増え，膨大の機構になった。市場経済導入から政府は，国営企業の費用を負担しないため，また，退職した人の年金

表7　盟食品公司肉牛・牛肉の購入・出荷量

| 1996年（単位：頭，トン） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 項目 | 購入牛数量 | 購入牛肉数量 | 年末牛肉在庫量 | 盟外移出数量 |
| 盟食品公司 | 2,350 | 101.5 | 94 | 271 |
| 全盟の食公司 | 14,645 | 316.6 | 512.7 | 881 |
| 占めるシェア | 16% | 32.1% | 18.3% | 30.8% |
| 1997年（単位：頭，トン） | | | | |
| 項目 | 購入牛数量 | 購入牛肉数量 | 年末牛肉在庫量 | 盟外移出数量 |
| 盟食品公司 | 1,621 | 50.8 | 38.8 | 196 |
| 全盟の食品司 | 18,821 | 423 | 478 | 925 |
| 占めるシェア | 8.6% | 12% | 8.1% | 21.2% |

資料：現地調査により作成

も企業が支出しているので，人件費と古い設備の修理費などは 国営企業の大きな負担になっている。錫盟食品公司の場合には315人の職員の中で108人が退職した人である。このほかに「盟食品公司」の出店する「小売コーナー」が設けられている。これは国有「食品公司」の営業拡大のため手段であるが，このこと自体「食品公司」本体の営業不振が深刻な状態であることを示すものである。このような状況下では流通構造の改善は困難である。このように国営企業の改革不徹底で人件費の拡大による生産コストの増大により競争力が弱くなり，加えて鮮度保持技術不備による品質劣化など，市場経済に対する行政の理解不足がある。

（2），私営屠畜場兼加工センター

牛肉消費量の増大によって牛肉価格が増加しつつあり，草地畜産による，冬季飼料不足で過冬不可能の牛が秋に安売りされる。秋に牛肉を大量に貯蔵し，來年の春に盟外の大都市北京，天津などへの牛・羊肉の移出は，高利益を取ることが出来る。そのため，民営の屠畜・加工・保存場が多数設置されている。産地の民営の屠畜場は大部分が零細な簡易屠畜場である。例えば錫林浩特市の民営「四季青」飯店は「小冷庫」という屠畜場と保存場を1993年に設置している。冷蔵面積は500平方メートルで，冷凍面積は260平方メートルである。屠畜場というものは100平方メートルだけである。設備は殆どなく，職員もいないのである。秋になると飯店の人たちのなかで4，5人は商人として近郊の家畜市場や牧民から牛・羊を購入して，屠殺して，部分肉で保存する。1997年では，牛購入数は24頭で，羊は349頭である。ここで，北京の消費地商人はこの屠畜場と契約しているので，1998年の春には牛肉の場合は三分の二くらい北京へ出荷された。三分の一のは現地の小売店で販売された。しかしこの簡易屠畜場とは商人および小売店が家畜市場や牧民から購入した肉牛に対し，屠畜サービスのみを行う最小限の施設しか保有してない屠畜場である。しかも，衛生管理面でも大きな問題をかかえている。品質劣化した牛肉の市場流入が見られる。

（3），商人ルートでの肉牛・牛肉の流通

現在，消費地商人は産地への介入，あるいは産地商人と消費地商人との結合による肉牛・牛肉を取引することが盛んである。特に錫盟の国営企業が倒産しつつあるので，失業した人たちは生計のために家畜の生体販売と畜産物の販売の各段階で流通中継人として活動している。さらに錫盟の食肉流通市場はセリ取引を行っておらず，家畜商人の介在を容易にしているので，各種個人販売商人が主流となっている。こうした状況の下では公正な価格形成に基づく円滑な取引の実現は著しく困難である。また，錫盟の牛肉価格は部位別の価格差が存在せず，もちろん，肉質によって部位別販売も実施されておらず，牛肉の価格の設定は小売店の判断によっておこなわれている。したがって産地においては家畜改良の必要性が薄れ，価格形成の客観的根拠が存在しない状況が続いている。このことは家畜商に不当な利潤の拡大を可能にしている。

（4），家畜市場

錫盟には旗・県によって家畜市場が設置されている。しかし遊牧民の住所の分散性により，遠隔地の牧民にとっては不利な条件になっている。しかも牧民は商売がうまくなく，直接家畜市場へ出荷する牛は殆どいない。現在の家畜市場への大部分の牛の集荷は商人を通じて行われる。生体の取扱量がすくないため，実際の家畜市場では羊毛・羊皮・牛皮などの畜産品が販売されているところが多くなっている。

## おわりに

本論文では中国における牛肉需給と流通構造の変化について，内蒙古の牛肉の産地形成と流通システムの変化を中心に分析を進めた。

牛肉需要の増加よって，牛肉生産は大きな変化がもたらされた。さらに改革開放以後，国内の改良牛肉への消費者の関心が高まったことも大きな変化である。しかし，このような生産の急速な変化に比べると，肉牛・牛肉流通の整備は依然遅れており，流通構造の再編が強く求められている。

内蒙古おける肉牛・牛肉の生産・流通の制約要因をみると，第1に内蒙古は肉牛産地として放牧地域による経済の発展段階に規定された流通環境，すなわち経済の地域閉鎖性を内包する政策体系と，広域流通の基盤である交通網・通信網・輸送手段などの未整備と深い関わりを持っている。第2に内蒙古では，流通基盤が不整備な状況下で，主要消費地である沿海部から遠距離であること，また，経済の脆弱さから，生産性向上のカギとなっている，新技術や基盤整備への投入不足が，その成長を妨げてきた。第3に生産者が自ら流通市場で販売する仕組みになっており，流通に商人が介在し，流通インフラの整備も遅れている。現在の内蒙古は牛肉産地の持続的な発展を維持していくことが重要な課題となっている。

生産段階における品種改良を中心とする畜産技術普及が遅れている。ウリジ牧民のように，牛の改良が停滞状態になっている。今後，牛肉質の向上のために，内蒙古の牛品種の改良が一番大きな課題となる。また，「特木畜牧業開発公司」のように放牧と肥育の結合で高級牛肉の生産を追求する企業がある。しかし今の内蒙古は全般的には家族経営が支配的である。すなわち家庭請負制によって創出された大量の超零細農業経営という構造上の問題がある。孤立・分散状態にある個別農家経営では牛品種の改良と新技術の導入などが限られている。経営規模の拡大を基本とする農業構造の再構築が重要課題として提起されている。新たな集団化・組織化による産地形成の確立が必要である。今後の対応として，意欲ある経営者に対して飼養規模の拡大などの条件整備を行い低コスト化を進め，牛の改良の促進を図るほか肥育技術を向上させ，ゆとりのある肉牛の経営の実現を図っていく必要がある。

産地段階では「国営食品公司」の流通施設の改善は行われていない。私立零細屠畜兼加工場の数は依然として拡大しているため，簡易屠畜場と商人ルートでの肉牛・牛肉市場に占めるシェアが高く，「国営食品公司」の機能の発揮を阻害しているといえる。このような状況では，不正な牛肉流通を助長しているので，国営の流通構造において，産地流通施設の整備及び改善が求められている。今後は市場流通の法的な整備，市場の合理的な開設数と最適配置，市場の構造的，機能的な整備などが重要な課題となる。特に，国の畜産流通政策においては，衛生問題がある屠畜場の閉鎖・統合及び私立新規屠畜場開設は制限すべきである。「国営食品公司」は流通近代化に欠かせない必須要件の規格・等級・検査等の能力を持っているので，この地域の特産である牛，羊肉など，肉類の鮮度保持技術や高度加工などによって今後の牛肉流通システムの中で重要な役割を発揮する必要がある。

## 参考資料

笹崎龍雄・清水英之助『中国の畜産』（家畜の品種を中心に）養賢堂，1984年版。
藤田　泉『中国畜産と展開』筑波書房，1993年版。
諭　菊生『現代中国の生鮮食料品流通変革』筑波書房，1997年版。
田島俊雄『中国農業構造と変動』御茶の水書房，1996年版。
白石和良『中国農業必携』農山漁村文化協会，1997年版。
中国農業部『中国農業白書激動の'79～'95』農山漁村文化協会，1996年版。
宮島昭二郎編著『現代中国農業の構造変貌』九州大学出版社，199年版。
杉山道雄編著『環境保全と山村農業』蘇都那「中華人民共和国の草地畜産の実態」日本経済評論社，1993年版。
姚　鳳桐・宇野忠義「中国の農家副業的養豚経営の実態と問題」『農業経済研究』第70巻，第1号，1998年。
『中国農村経済』1997・5月号。

# Beef Production and the Present Distribution Structure in China: The Case of Inner Mongolia

Wen-Xiu LI and Hidemi MIKUNI

*Faculty of Applied Biological Sciences, Hiroshima University, Higashi Hiroshima 739-8528, Japan*

In China, the number of raising stock of cattle was 147 million and the beef production total was 5.8 million ton in 1998. Compared to the previous year, the number of cattle increased 5% and the production quantity raised by 7.4%. In this way, it is observed that the Chinese beef production is getting stronger trend and the processing industries is developing gradually. There are various shapes of beef production and management systems in China as if is a very big country. The Inner Mongolia has become a place of beef raising with the production of meat and draft animals. It has gained an important status of supplying beef to the towns and cities.

In the pastural area of Shimon in Inner Mongolia, the remarkable change occured in beef production due to shift of enterprise from public control to special producers' group and community approaches. This happned afterthe large economic reform and the opening of market economy. Due to the integration process, it is also observed that the animal industries have been developing fast. Thus, recently, the public enterprise, private slaughter house, animal markets, etc. have been developed instead of only government structures and facilities previously. But due to privatization, the private managed products have been observed more in the markets with the increase of lower grade products in the distribution channels. But the state controlled facilities are now heavily indebted and thus, the meat industry development has been impedded with other associated problems.

**Key words:** China, Inner Mongolia, Beef production, Management structure, Regional production facilities.